

の増であります。

また、一般会計の収支不足額は、前年度に比較して約7300万円増の約11億7200万円で、同額を基金から取り崩し、収支の均衡を図っております。

今後も安定した財政運営を図るためには、基金残高を確保する必要がある、取り崩した基金を可能な限り年度内に積み戻すことができるよう、さらなる自主財源の確保と経費節減に努めてまいります。

財政指標の一つである将来負担比率は、令和2年度決算で79・6パーセントと地方債を発行する際に国の許可が必要となる基準を下回っておりますが、依然として高い水準で推移しております。今後も老朽化が進む町有施設等の更新整備などに当たっては、後年度に及ぼす影響を考慮しつつ、『第6期厚岸町総合計画』に掲げた財政健全化指標の目標達成に努め、将来にわたって持続可能で安定的な財政運営を推進してまいります。

むすび

以上、令和4年度の町政を執行するに当たっての基本姿勢と主要な施策の概要について申し述べました。

本年、厚岸大橋が北海道で最初の海上橋として竣功しゅんこうされてから、50年という記念すべき年となります。



私にとっても、その時の記憶は今でも鮮明に思い出すことができる正に歴史的な出来事でありました。

私は、先人の血と汗の滲み出る苦勞くろうはもとより、それぞれの分野において揺るぎないご努力をされた方々、町民の皆さんの悲願達成に向けての一致団結した活動に、改めて心から敬意を表する次第であります。

『氷り渡りも、むかしの夢よ、今じゃ大橋、ひとまたぎ』厚岸音頭の歌詞の一節です。

この厚岸音頭は、厚岸大橋の完成を祝って、根室市出身の作曲家である故、飯田三郎さんが作詞、作曲され、大橋完成を祝して、楽曲に合わせて踊りも誕生しました。



毎年開催される厚岸の夏を彩る『厚岸港まつり』で、一糸乱れぬ群舞ぐんぶを繰り広げながら練り歩く『厚岸音頭市中大パレード』へと繋がっております。

昭和47年の厚岸大橋の開通は、町民の心の架け橋として、それまで湖南・湖北の両地区に分断されていた厚岸町に真に一つの地域社会を形成させ、住民生活の利便性や、今日に至る産業・経済・文化・観光などの発展に大きく寄与することとなりました。

しかし、その世紀の大事業による悲願達成から50年の間にも、幾多の時代の変遷へんせんがあり、町政はその折々



に新たな課題に直面しては、町民の皆さんと共に手を携えながら、それらの一つ一つを解決することで今日の厚岸を築いてまいりました。

そして現在、時代は変わり人は変われど、厚岸を愛する人たちの『さらなる厚岸の幸せ』を願う気持ちは変わることがありません。

そのような意味において、まちづくりに終わりはなく、今もまた、私たちは大きな時代の変革期の真ただ中にいます。

先人たちの苦勞を偲しのびつつ、私たちの愛する『あつけし』の新時代を創造するため、共に力の限りを尽くそうではありませんか。

町議会議員の皆さん、そして町民の皆さんの一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、令和4年度の町政執行に当たっての、私の所信といたします。